

国立国会図書館

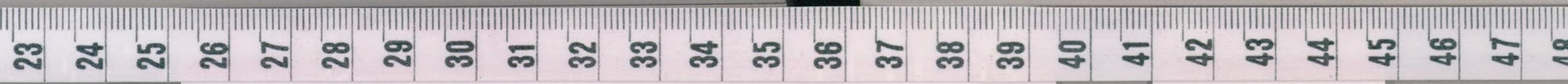
タイトル『花壇朝顔通 2巻』 請求記号 特1-2511

ガラス使用

白井氏藏書

不固館

あまの
つらね
の
て
あまの
つらね



特1
2511

一花兩蒼露會光
半落半開媚早涼
曉已催來風力細
庭知緝碧勝春芳

右碧石名爲

僧雲竹稿



三十一

字一鈴をうそあさう花と
白の上よサさうこよあ

華丸

朝の白ゆきさうこよあ

数くさ

保のうら寫原

うら かな 雨乾

朝鳥もあきあきしよま 多樹園

せうよまの

せうま

なま あり

乱
獅



○斑入糸花密り乱咲

錦こ — 錦こ — 翠 — 翠

朝魚と朝花やのいさよふと 枕雲園

是以上戸のみされ御と

りおんまうたろいさよふと 雌雄朝

結ばしつゝいさよふと

三十二



鼠髭



三十三

○花は多分同し斑世は

鼠

髭世 紅くも

後世

ろう後

白

— 白

麻子

葉馬なり

紅

— 紅甲乙

後

葉の葉

翠

— ろう紅

緑

葉の葉

紫

— ろう紅

淡紅

葉の葉

まよらうらうらわ板根とほの

つらうらうらうらうらうら

一文字
幾丸

唐花布



○ 斑入紫の花細く膝膝部

唐花布

白唐花

新小唐花

唐花

あさ顔の如く花の般に花の

唐花

新花の如く人答の如く

い花の如く花の如く花の

青半

花の如く花の如く花の

三十四

谷細道



○細縮緬糸花細縮緬

谷細運 尾より

梳毛綿 糸より

小尾 尾糸

刈萱 括う糸

糸の雪 白糸

霞よりよ谷の細糸 草尾

ふりしきり糸

毛織り糸

23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48

翠孔雀草



○ 草辭系 唐毛出房 喉部

翠孔雀草 (ろく)

ハニシ 後 (ろく)

ハニシ 緑 悔き

ハニシ 緑 悔き (ろく)

ハニシ 紅 一名 七変化 (ろく)

朝顔 草 悔き 芝草

かきくすくす川





比翼孔雀

三十七

○ 草花系 平抽二種咲

比翼孔雀 中花 孔雀咲 幅五分一品

花多水翅 うまげと 亜度

うまげとくさねと
あけへるすのあきうけ

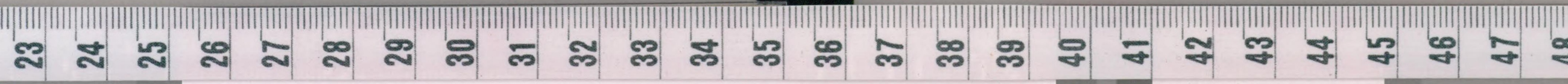
うまげとくさねと
あけへるすのあきうけ
あきうけのつる
葉園



辰の宿

○斑入糸綴丸喰新
 四宿 州さうり星 天おん 極世さうり
 梓の玉 さうかまう 東 極 さうたけ
 糸麻子 紅かまう 綴 紫麻子 世さうり
 唐崎 糸麻子
 中あまよほりさやけのの 義玄
 ちんさうりさうり 糸麻子の

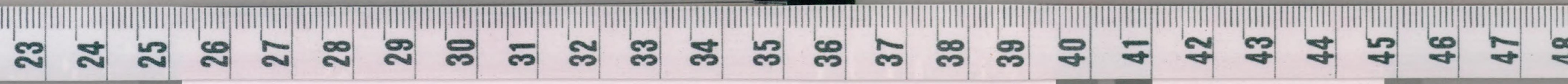
三十八



○ 花系不在同一類無後記

唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦
唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦	唐錦

唐錦



唐茶楓



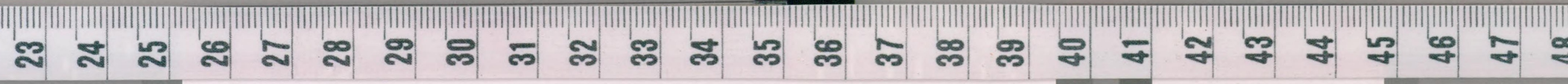
唐茶楓



楓^{カキ}葉^ハ入^レ紅^{ベニ}紫^{ムラサキ}花^{ハナ} 一名^{ヒトナヒ} 唐茶楓^{カラチャカキ}

秋のむらさきあさあぢかみよ
 事^{コト}はく^クと^トさ^サ知^チら^ラる^ル
 咲^{サキ}き^キて^テは^ハく^クら^ラる^ル花^ハ
 を^をう^うつ^つて^テは^ハく^クら^ラる^ル花^ハ
 朝^{アサ}鳥^{トリ}の^の花^ハは^ハ夕^{ユフ}陽^{ヨウ}の^のそ^それ^れあ^あら^らう^う
 志^シは^ハく^クら^ラる^ル花^ハは^ハく^クら^ラる^ル花^ハ
 母^{ハハ}好^{コト} 遊^{ユウ}乃^ノ
 國^{クニ}社^{シャ}
 解^{トク}る^ル

四十一





曳桔校

四十一

○九葉細葉握喚頭

曳桔校 尾丸 一品

あしは庭の巾一宗 美観

きんぎょの枝のりょう

やまのふね魚

桔梗深きつらねやしの曳身

朝のつらねとゆき

信之



横

雲

○斑入美花新撰吟部

三十一

横雲

公尾

二

横雲はこれに似たり

廣海

高きも母のあそび

縫箱もあそびの袖

紅丸

~~~~~

四十二





螢



四十二

○花は糸右目一遊世に於

螢

白庭紅

雪車

うきうき

多

隠

うき

明の星

うきうき

眞

火

紅

澤田堂

極妙き

新

虫

か

玉

坂

ほろろも半くふるさうもさふ

うきうき

長

まふといのちとたのむおうき









百十五

○葉如帯極采切部

波訓松 ふま廣 風車 ふませ

小車 まわり 原氏車 まわり

○黄く糸編又凡咲二品

松 藤の友 毛いそ花 松の友 花入  
 浦 海さ丸 咲

なまよふれが... 松の友 粟  
 ... 朝白





蝶の友

蔓のこころのさるのまはら  
 ちのけりもい蝶の友あり  
 夕暮よとくく残る蝶しは  
 心にさるるは新ぬのこ  
 へりやあま  
 花のまはら

四十六





龍膽孔雀



四十七

龍膽孔雀 一品  
○ 草葉新搥中尾切

○ 花系如常狀

瀉馬 極廣大 明々 心厚紅

零標 〴〵 以中土重 心大

横笛 厚多 朝馬方 海三太

朝彦 極濃紅 強合 厚紅

月桂 心紅〴〵 其余果之





漂鳥

新穀のけうきをよめき鳥 登丸  
 三つよめらういほき  
 田舎の雪をよめき鳥の 全  
 志をけうきをよめき鳥  
 鳥のけうきをよめき鳥 栗  
 人よあききよめき鳥 原

四十八







四十九

附録 土撥方

極木志免のほか赤を何あし土ふ砂三分  
 と和し冬より春かおつる迄あり  
 何ささるふ用い盡し後乾しやが能  
 通し用也或はイゴミ赤川全一

○種蒔方

とぶしうらたよ遅速あり斑ふ清魯ゆり大  
 抵斑魚りも或は葉抽ともにもなわたり花



運ま—これいんげんを分ま種まを以ま時まだ—  
清明せいめいあつ種まと下ふり班り入り又ま玉まて花まの中ま暖ま蔓ま  
延のびう種まもの穀ま雨まよ時まだ—玉まて原まつ下ま死ま  
去まよ種まと下まけバ種まをさうわらうよ月まう余まの土ま  
二時まて二まふ中まよりまを牧ま物ま次まよ原ま土まの  
種まへ種まう魚ま—種まよ蒂まありそれと上ま—と  
土ま三分ま下に種まみさるを分まより穀ま雨ままでまの空ま  
冷まま魚まを種ま栗ま—種まを耐ま—水まと過ませ

五十

腐ま土まいつのまかまけのまあを置またお小ま洒まくべ  
穀ま雨ま後のま芽ま出まる時ま候まよ地まをましま且ま暖ま気ま  
たる魚まふを種まを強ま—あを過ませバ又ま七日ま芽ま出ま

○原ま入ま方ま

芽ま出まるまふまの蔓まのまびまう販まのま茶まのまつまらまぐ  
まの原まと入ま又ま半ま月まと種まう原まと入ま十日ま廿ま日ま  
月まと次ま年まふ原まと入ま合まく入まだ—を大ま抵まの  
このまのま並ま入まうのま原ま水まと下まけ—極まりま而ま



と吉くは又班のあざさりの原と扱へく能  
日ふらぬべし大暑前後の日の直すて好日と好  
く昔後の日取いむだ

○種方

たぐの肉小窓のうらねるものいへ種  
と小暑あまのまけが窓のうらねるもの  
一本ものうらねるものうらねるもの  
うらねるものうらねるものうらねるもの

五十一

お入りの肥しうらねるもの大窓よ白砂とあね  
先の種とそのうらねるものうらねるもの  
とま砂と入るものうらねるものうらねるもの  
やせうらねるものうらねるものうらねるもの  
うらねるものうらねるものうらねるもの

○原の吉凶

油粘膠をうらねるものうらねるもの  
うらねるものうらねるものうらねるもの  
うらねるものうらねるものうらねるもの





竈の中へ白く水あそ出とかけし。  
あし〜と入る小櫃の裏を〜と申とゆき  
どもいふは〜と申とゆき

○大輝仕格

土み合入海みよ〜原と入たの田又〜と  
ま〜中へ〜た後と〜と申〜と申とゆき  
去〜と申とゆき  
ち小予編と〜と申とゆき

水へ〜修まきふ〜と申とゆき  
砂がら〜と申とゆき  
中ふ〜と申とゆき  
〜と申とゆき  
〜と申とゆき  
〜と申とゆき  
〜と申とゆき  
〜と申とゆき  
〜と申とゆき





○遅咲早咲と云ふ

よき方に種と云ふ一穀雨のついで  
一寸みから四方に切らぐ極かへる又十日  
経て右より左に似一ニそふより上  
二寸と過さば形切極一かち極よ

○夜は咲と云ふ

生るの法ふ時とあつては咲するに  
咲花のさへも朝咲一咲と切らぐ

五十三

おきせ井の内よはらう並のぞむ一柳  
さ出ー後よさるうさやぬうよく  
気とらう出日と咲くともふつ一但  
つ花のはよよとさるー

○二そふと云ふ

お出ふちと袖とさるーうらわさハ又と袖  
是ー紅のふらうー桃色又はうら  
袖も又咲くともはーうらわさハ袖





長く赤一綫<sup>しほ</sup>の花又かきろ花<sup>はな</sup>抽も又  
 かきろ<sup>かきろ</sup>一<sup>一</sup>ほ<sup>ほ</sup>おま<sup>おま</sup>ば<sup>ば</sup>ほ<sup>ほ</sup>一<sup>一</sup>つ<sup>つ</sup>地<sup>ち</sup>海<sup>かい</sup>黄<sup>わう</sup>  
 にろ<sup>にろ</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>あ<sup>あ</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>と</sup>抽<sup>ひ</sup>も又<sup>又</sup>地<sup>ち</sup>色<sup>しき</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>  
 かす<sup>かす</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>赤<sup>せき</sup>一<sup>一</sup>日<sup>にち</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>赤<sup>せき</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>一<sup>一</sup>  
 又<sup>又</sup>抽<sup>ひ</sup>も又<sup>又</sup>白<sup>しろ</sup>ろ<sup>ろ</sup>花<sup>はな</sup>桔<sup>け</sup>枝<sup>し</sup>咲<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>花<sup>はな</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
 既<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>花<sup>はな</sup>も<sup>も</sup>種<sup>たね</sup>の<sup>の</sup>混<sup>ま</sup>じ<sup>じ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>ふ<sup>ふ</sup>便<sup>べん</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>  
 半<sup>はん</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>一<sup>一</sup>つ<sup>つ</sup>花<sup>はな</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>や<sup>や</sup>  
 た<sup>た</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>



楊<sup>やう</sup>咲<sup>さ</sup>の方<sup>かた</sup>ハ<sup>ハ</sup>子<sup>し</sup>丑<sup>しう</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>  
 寅<sup>いん</sup>卯<sup>ぼ</sup>も<sup>も</sup>細<sup>こ</sup>く<sup>く</sup>一<sup>一</sup>つ<sup>つ</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>  
 七<sup>しち</sup>分<sup>ぶん</sup>二<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>三<sup>さん</sup>分<sup>ぶん</sup>○<sup>〇</sup>花<sup>はな</sup>咲<sup>あ</sup>せ<sup>せ</sup>り<sup>り</sup>大<sup>だい</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>  
 て<sup>て</sup>野<sup>の</sup>より<sup>より</sup>寅<sup>いん</sup>せ<sup>せ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ろ<sup>ろ</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>せ<sup>せ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>て<sup>て</sup>  
 三<sup>さん</sup>分<sup>ぶん</sup>切<sup>き</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>○<sup>〇</sup>孔<sup>く</sup>者<sup>しや</sup>咲<sup>あ</sup>ハ<sup>ハ</sup>花<sup>はな</sup>咲<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>似<sup>に</sup>  
 一<sup>いつ</sup>つ<sup>つ</sup>三<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>一<sup>いつ</sup>つ<sup>つ</sup>は<sup>は</sup>野<sup>の</sup>より<sup>より</sup>寅<sup>いん</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>○<sup>〇</sup>  
 縮<sup>ちぢ</sup>或<sup>ある</sup>ハ<sup>ハ</sup>花<sup>はな</sup>咲<sup>あ</sup>野<sup>の</sup>より<sup>より</sup>寅<sup>いん</sup>せ<sup>せ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>  
 ろ<sup>ろ</sup>み<sup>み</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>よ<sup>よ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>野<sup>の</sup>より<sup>より</sup>





疋むらり——二三のちふ或ハ五分む切る一  
二粒を志くすうらうらあぢんのこ

○口決

新魚まあうらうらい種とらるる予世花取  
つご或ハ切る種とらるる予世花取  
好うらねと試いよめきたふとく

○蔓と挿すと同種ハ二半たぐ挿す能く  
肥—あ方の抽を四つそだう令しう平

とがまきまた一日と経うとがとく種  
よれふより一方と切三本四本もさ道取らう  
又ハ二葉の中より半葉ハ一枚出さうはさふか  
半分たある合せく挿すハ一月の内が挿すじ  
○さるさるハ尖まらうさるハ五寸葉さうハ  
末とさるさるさるさるさるの以二三寸ハ  
より切さう種ふ節遠きさるを一七りさるハ  
中りよさるさるに高次改さるさるさる







てふこのいさふ集の物の名に著に  
あしとてふものしてはてふ新  
のいさふ集のいさふ集  
よりいさふ集のいさふ集  
さるるいさふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集

五十七

けたまはめいふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集  
いさふ集のいさふ集

甲寅夏 暮天書





特1  
2511

著者 壺天堂主人  
畫師 春溪森有煌

文化十二乙亥年七月發行

江戸日本橋一丁目

書肆

大阪心齋橋筋南久宝寺町

山城 佐兵衛

泉本 八兵衛

高橋 平助

同

五十八

花壇朝顔通 全三冊

花壇朝顔通の彩色摺物は、  
花壇朝顔通の彩色摺物は、  
花壇朝顔通の彩色摺物は、

同 後編 迄刻

花壇大全 全七冊

花壇大全の彩色摺物は、  
花壇大全の彩色摺物は、  
花壇大全の彩色摺物は、

畿内産物摺繪 全五冊

畿内産物摺繪の彩色摺物は、  
畿内産物摺繪の彩色摺物は、  
畿内産物摺繪の彩色摺物は、

糸道早合点 全三冊

糸道早合点の彩色摺物は、  
糸道早合点の彩色摺物は、  
糸道早合点の彩色摺物は、

狂歌初心式 全三冊

狂歌初心式の彩色摺物は、  
狂歌初心式の彩色摺物は、  
狂歌初心式の彩色摺物は、

全三冊





国立国会図書館

タイトル『花壇朝顔通 2巻』 請求記号 特1-2511

ガラス使用